

連鎖する貧困

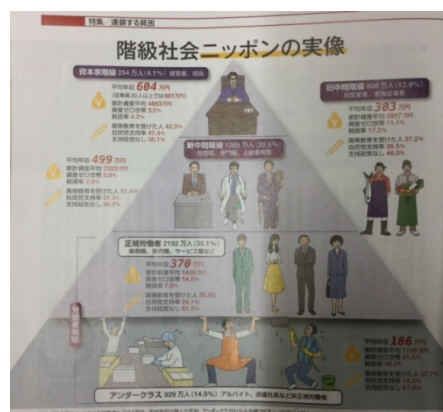


標題は『週刊東洋経済』4月14日号の特集。こうしたテーマが経済誌で特集されるのも、時代状況を反映するものだろう。

PART1 は深刻化する子どもの貧困。特集は「アルマーニ騒動で浮き彫りに 広がる子どもの格差」から始まる。高級ブランド店やデパートが立ち並ぶ東京・銀座。その一角にある中央区立泰明小学校は、2018年度の新生からイタリアの高級ブランド、アルマーニが監修した標準服を導入すると決めた。物議を醸したのはその価格だ。一式そろえると8万円を超える。

「前川喜平 x 湯浅誠が直言」で、前川さんは「公立学校がやることとは思えず、全然理解できない。一定の特色を出すのはいいが、ああいう出し方ではいけないと思う」と批判する。前川さんは続けて、子どもの貧困を解決するのはやはり教育、学習機会をきちんと保障することだ。貧困層は増えている。全国の小中学生のうち就学援助の支給対象者の割合が1995年は16人に1人だったのに、2015年は6人に1人になった。学用品がなかなか買えない。子どもの本が自宅に1冊もないといった家庭が出てきて、文化力みたいなものに格差がついた。一人親家庭も増えている。今や高卒者の8割が大学や専門学校などに進学しており、高等教育は一般的になった。ところが生活保護世帯の子どもの進学率は3割台、児童養護施設の出身者は2割台と低レベルだ。進学したくても経済的な理由でできない状況はなくさなければならない。湯浅さんは「文化資本の少なさを地域の力で補いたい」と。

特集 PART2 は階級社会が進む日本。子どもの貧困をはじめ、日本でも格差が広がり、貧困に苦しむ人たちが多くいる。「今でも一億総中流の平等な社会だ」と思い込んでいる人が多いが、日本は階級社会だ。社会学者の橋本健二・早稲田大学教授はそう断言する。橋本氏は写真のように、日本社会は五つの階級に分類できるといふ。資本主義社会においては労働者階級が最下層とされている。ところが橋本氏によると、労働者階級が二分され、新たな階級が存在するという。それが非正規労働者（パート主婦を除く）を中心とする従来の階級以下の階級=「アンダークラス」だ。



さらに日本社会の構造として浮かび上がっているのが階級の固定化だ。

(2018年4月14日)